

医療を考える

今後の医療を考える

—治せる病気から治る病気へ—

今日の医療は素晴らしい進歩を遂げ、治せる病気から治る病気へと進化しつつあります。

例えば、C型肝炎は治せる病気となりました。

C型肝炎の治療において、1992年からインターフェロン (IFN) の単独療法が始まりました。しかし、多くの副作用 (よく見られる副作用として、インフルエンザ様症状、消化器の症状、脱毛、皮膚の症状、その他) が発現しました。ウィルス陰性化率は3%程度でした (ただし、タイプ1 & 高ウィルス量症例)。2011年はIFN+RBV併用療法、2004年からPEG-IFNの多剤との併用療法が始まり、2014年にはプロテアーゼ阻害剤も併用されるようになりました。そして、2014年にDAA s が登場しました。画期的なC型肝炎治療剤として2015年にハーボニー (レジパスビル/ソホスビル)、2017年にマヴィレット (グレカプレビル/ピブレンタスビル) が誕生しました。

マヴィレットは治療期間が8週 (他剤は12週) であり、日本人を対象とした第Ⅲ相試験でウィルス学的著効率 (SVR) 99%、他のDDAで治癒できなかった患者において12週間の投与でSVR 93.9%の成績でした。さらにはC型代償性肝硬変の適応症までもあります。肝臓疾患において、ま

くろつち福岡春日リハビリテーションクリニック

薬剤師 富松 正秀

さに待望の薬剤と言えます。

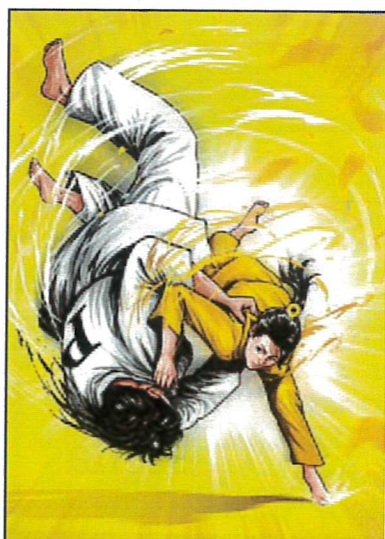
今後も高齢化日本社会において完治を期待される病気は多々あります。それらの病気に再生医療の貢献が期待されます。心疾患関連の心筋梗塞や心臓移植が必要な拡張型心筋症が期待されます。

再生医療においては、iPS細胞や幹細胞 (脂肪由来) が組織細胞を形成、間葉系組織は多分化し、その細胞から生活活性物質を作り出します。最終的には病的組織の形成 (再生) が行われます。この治療法は脳梗塞、認知症、パーキンソン病、脊髄損傷、アトピー、軟骨再生などに効果が期待できます。日本人は男女とも10年前後は健康 (寿命) でない人生を送らなければなりません。20年後には平均寿命と健康寿命の差が縮まる医療に発展することが予想されます。当院は、すでに再生医療の認可を取得しています。

ここで問題になるのは骨粗鬆症や認知症 (またはMIC) です。

骨粗鬆症において子供のような骨膜や骨芽細胞を再生できないかと思えます。実現すれば、新しく再生される骨形成のスピードが速く、より強靱な骨が形成が期待できます。

将来、認知症やフレイル (さらにはサルコペニア) にならない医療体制が実現し、快適な老後が過ごせる時代が実現することを望みます。



高リン血症治療剤

処方箋医薬品^(注) 注) 注意—医師等の処方箋により使用すること。

薬価基準収載



ピートル[®]チュアブル錠 250mg
500mg

P-TOL[®] Chewable Tab.

スクロオキシ水酸化鉄 (sucroferic oxyhydroxide) チュアブル錠

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

製造販売元

キッセイ薬品工業株式会社

松本市芳野19番48号 <http://www.kissei.co.jp>
<資料請求先> <すり相談センター 東京都中央区日本橋室町1丁目8番9号
TEL 03-3279-2304 フリーダイヤル 0120-007-622

PT3521LD
2018年1月作成